

令和5年度活動報告

しまなみ海道通行料実質無料化の在り方検討PT

はじめに

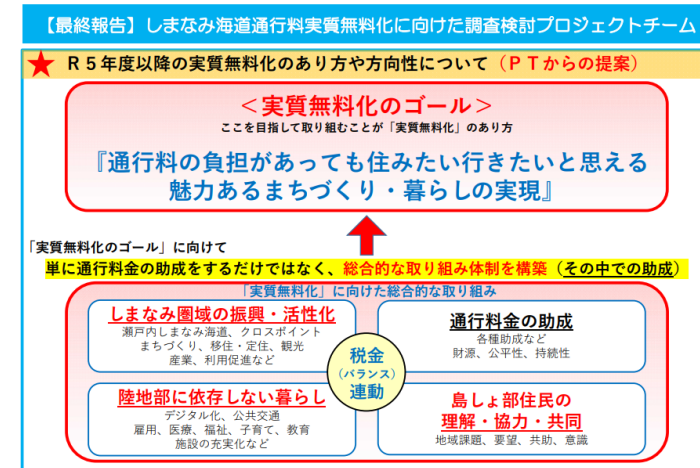
■ PT方向性

令和4年度PTの最終報告にある

「負担軽減を図りつつ、住みたい、行きたいと思える街づくり」に向け、

- ・しまなみ圏域の振興・活性化
- ・陸地部に依存しない暮らし
- ・島しょ部住民の理解・協力・共同

上記を柱に、様々な意見を集約していく。



単に補助金や助成金を出すのではなく、

将来こんな風になったら良いなといった夢のような提案

現実的に難しい施策提案

斜めから攻めた面白い提案

これらの意見を大切にし、議論していく。

明らかになっている事

○ ETCカード番号を活用した交通動向・利用実態分析

- ・しまなみ海道は、島しょ部住民にとってなくてはならない「唯一の生活道路」
- ・ほとんどの世帯が週1～2回程度の利用
- ・島しょ部で完結できないことは今治陸地部へ依存
- ・島しょ部3島間の移動は全体の約2割～3割
- ・島しょ部圏域においては伯方島を中心とした生活圏が形成

○ しまなみ暮らし支援アンケート

- ・島しょ部へ住みたい理由は「自分が生まれ育ったから」が大半
- ・住みたくない理由は「しまなみ海道通行料が負担だから」、「買い物する場がない」、「交通の便が悪い」が大半
- ・しまなみ海道通行料の負担となる理由「通院」74.9%、次いで「買い物」65.5%

「生活目的」の世帯あたり通行料金の平均は**7千円～9千円/月**程度

※道路課による分析結果

明らかにになっている事

○ 橋開通前との比較 ⇒ 負担は軽くなっている

	橋開通前	現在
救急搬送	救急艇 50分	救急車 28分
大島－今治間 片道運賃 (家族4人)	フェリー運賃(下田水) 軽四 2,000円 大人500円 子供250円 約3,000円	760円 (平日)

※しまなみ海道開通後、下田水－今治港間のフェリー料金は橋代より若干安くなったが、利用者が減り運航を中止。

目次

はじめに

1.分析

2.議論内容

3.提案企画

4.さいごに

議論内容

オリエンテーション

PT設置目的と意識共有

しまなみ暮らし支援アンケート結果やETC
カード番号を活用した交通同行・利用実態
分析結果の確認

ブレインストーミング

①しまなみ圏域の振興・活性化

②陸地部に依存しない暮らし

③島しょ部住民の理解・協力・共同

④月額通行料7,000円～9,000円負担軽減策
上記4点を中心に案出し

提案内容の具体化

※中間報告

企画提案内容の具体化

予算化に向けた提言

※最終報告

← PTに関連した提案共有（環境政策課 住吉氏）

具体化した提案内容の公表、実現化

提案企画

①しまなみ圏域の振興・活性化

- ・IR誘致 ・ハロウスクール誘致
- ・大型複合店誘致
- ・しまなみ圏域の超ブランド化（ニセコ化）
- ・太陽光発電設置抑制
- ・農業事業承継による景観保全
- ・フェス開催
- ・ロケ地、聖地化
- ・市独自のポイント制度導入
- ・ディズニー、USJ誘致
- ・田ノ浦、友浦などの景観を生かしたハイブランド地区化
- ・農業王国化
- ・作物のブランド化(例：紅まどんな)

②陸地部に依存しない暮らし

- ・オンライン診療 ・デジタル市役所
- ・配送ドライバー確保及び支援
- ・習い事のために橋を使うのではなく、市内講師(塾・ピアノ・その他)に公共施設の無償貸与(営利目的による規制の緩和)
- ・通信回線の超高速化

③島しょ部住民の理解・協力・共同

- ・橋開通前と比べ、利便性は高くなっていることの理解周知
- ・シェアリングエコノミー
- ・島へ住むことのメリット(土地が安い等)
- ・外部人流を促進し、地域のファンorリピーター作り

④月額通行料7,000円～9,000円の負担軽減策

- ・シェアリングエコノミーによりガソリン代の抑制
- ・島内で生活を完結
- ・伯方町を中心とした一大商業地化
- ・EV化促進によるガソリン代抑制
- ・自家発電(太陽光屋根)の促進
- ・島しょ部独自の宿泊税
- ・地価の安さで賄える

目次

はじめに

1.分析

2.議論内容

3.提案企画

4.さいごに

提案企画① しまなみ版ライドシェア

③住民の協力・共同

○内容：相乗り相手を見つけるマッチングサービス「**notteco (のってこ)**」の利用推進

nottecoとは？

nottecoは「安く移動したい人」と「ガソリン代などの実費を節約したいドライバー」をつなげる日本最大の相乗りマッチングサービスです。2007年にサービスを開始し、現在、40,000人以上の会員を有しています。

同乗者
安く移動したい
快適に移動したい

相乗りで楽しく移動
notteco
相乗りマッチングサービス

ドライバー
ガソリン代や高速代の
実費を節約したい

会員数40,000人突破、年間7,000ドライブ登録

※出典:<https://notteco.jp/info/legal>

○効果：橋代やガソリン代を節約できる。
相乗りによる車両通行台数を減らし、車両から排出されるガスを抑制する。

○試算：同乗1名 月額収入 1,380円×22日(平日) = **30,360円**
同乗2名 月額収入 1,840円×22日(平日) = **40,480円**
※参考例：今治北－伯方島間を軽自動車通勤

○課題：「notteco」登録ドライバー数を増やし、相乗り機会を創出する。

○予算：登録ドライバー推進の為に、新規登録に対するインセンティブを付与
周知に関する、広報・広告費
「notteco」登録や手数料は不要

目次

はじめに

1.分析

2.議論内容

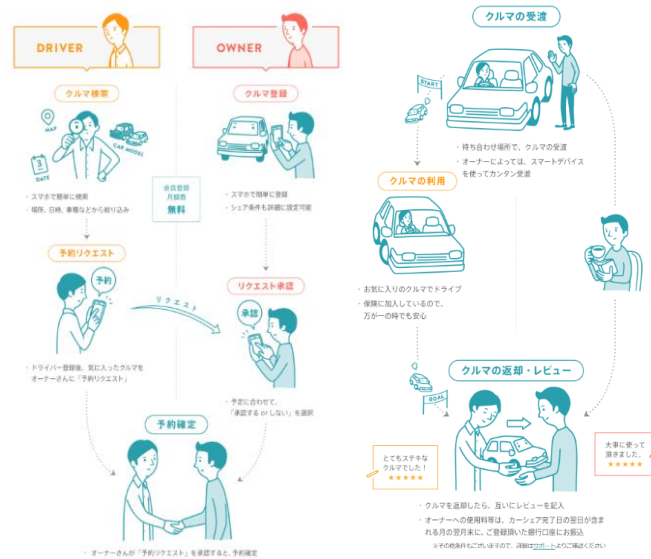
3.提案企画

4.さいごに

提案企画② エコシェアリング（私用車編）

①振興・活性化

○内容：「Anyca（エニカ）」を通じた私用車のカーシェアリング（レンタカーの私用車版）



※出典:<https://anyca.net/p/beginner/>

○試算：

車種による収入/月

車種	利用料/日	回数/月	利用料/月	収入
SUV	9,000円	4回	36,000円	25,200円
コンパクトカー	5,000円	4回	20,000円	14,000円
軽自動車	4,000円	4回	16,000円	11,200円

世帯当たりの通行料平均額8,000円+燃料費約6,000円
= **月14,000円**

○効果：個人の初期投資不要（自身が持つ自動車でもOK）

貸出収入により、車の維持費を軽減する。

ドライバーは駅や空港ではなく、途中滞在している島で車を借りることが出来る。

○課題：車の状態や車種による需要の偏りがある。

○予算：Anyca(エニカ)導入サポート費用、周知に向けた広告費用

提案企画③ しまなみ60

④負担軽減策？

○内容：橋通行料は島しょ部の地価&固定資産税の安さで賄える。

島しょ部と陸地部の平均地価と固定資産税を同等の平米数(200㎡)で比較すると
月額平均通行料60年分と同額の差額が生じている。

○試算：

	島しょ部	陸地部		
		全域	旧市内	路線価評価地域
平均地価 (円/㎡)	7,942円	34,320円	40,528円	45,142円
平均地価 (円/200㎡)	1,588,400円	6,864,000円	8,105,600円	9,028,400円
平均固定資産税 (円/年)	2,594円	11,211円	13,239円	14,746円
月額平均通行料8,000円×○年分		<u>60年</u>	<u>76年</u>	<u>88年</u>

○効果：島に住むメリットのひとつとして、移住施策のPRができる。

○予算：予算不要

島しょ部に住むには生活するうえで橋代がかかるというデメリットを
カバーするものとして理解し、移住施策のPRに活かして欲しい。

提案企画④ 市役所塾

②陸地部依存しない

○内容：島しょ部にある公共施設（会議室等）を
旧市内在住の講師が利用する場合に限り、無償で解放する。

○試算：大島から旧市内の塾等へ週1回（月4回）通った場合

想定	生徒10名 交通費負担(月4回)	講師負担(月4回)
大島在住の生徒が 旧市内の塾へ通う (軽自動車)	74,400円	0円
大島在住の生徒が 旧市内の塾へ通う (バス)	52,000円	0円
講師が大島へ塾を開講 する(有料)	0円	16,800円
講師が島内へ塾を開講 する(無償)	0円	7,440円

※月額9,360円の施設利用料を免除

○効果：習い事の為に橋代を使って通う生徒の**交通費負担が0円**となる。
講師負担が交通費負担のみとなる為、島内での**習い事開講ハードルが下がる。**
ほぼ使われていない施設の利用促進

※参考：吉海学習交流館 2階会議室① 令和5年度利用実績 **稼働率 6.29%**

※計算式：R5年4月～R6年1月実績件数57件/305日×3(午前、午後、夜)

○予算：**予算不要**

提案企画⑤ SHIMA PAY

①振興・活性化

○内容：島しょ部内の登録事業者のみで使用できるデジタル地域通貨を導入
島しょ部内の経済循環を促す。（他自治体の利用実績あり）

○試算：チャージ上限が40,000円/月 ポイント付与は使用額の1.5%（600円/月）

1 人家族生活費 約16万円/月（内 食費 約3万 家具・家事用品 約0.4万円） = 3.5万
2 人家族生活費 約25万円/月（内 食費 約6万 家具・家事用品 約1万円） = 7万
4 人家族生活費 約33万円/月（内 食費 約8万 家具・家事用品 約1.5万円） = 9.5万

厚生労働省HPより

単独世代⇒33% 夫婦のみ⇒25% 夫婦と子供+その他（4人家族として想定）⇒42%

525円 * 12ヵ月 * 2640 (8000*33%) 世帯 = 16,632千円/年（1人家族）
600円 * 12ヵ月 * 2000 (8000*25%) 世帯 = 14,400千円/年（2人家族）
600円 * 12ヵ月 * 3360 (8000*42%) 世帯 = 24,192千円/年（4人家族）



○効果：島嶼部内の経済循環・振興・活性化
生活支援クーポン配布等もアプリで対応可能
ボランティアや行政イベントでポイント付与による参加向上へ

○予算：歳出（55,224千円） 歳入（利用額の1.8%）





※出典：<https://chiica.jp/>
<https://x.gd/Ze2Nj>

省エネ・再エネ導入の効果（電気代/CO₂削減）

・ 家庭向け再エネ設備で**19,500円/月**節約可能

1世帯あたり4,175kwh/年(11.5kwh/日)利用

令和3年度 家庭部門のCO₂排出実態統計調査 資料編(確報値)(環境省)

家庭向け	太陽光発電設備	蓄電池	ZEH (ネット・ゼロ・エネルギーハウス)	EV	燃料電池
					
家庭設置の一般的な設備容量	3~ 5kw (約15.6kwh/日発電)	5~ 7kwh (約6kwh/日蓄電)		夜間充電で 2.2円/ km分 (370km/月走行すると 814円)	0.7kw (約16.8kwh/日発電)
一般的な電気代削減量	約4,600円/月 (468kwh/月)	約5,800円/月 (180kwh/月)	通常住宅よりも 20%エネルギー消費量が削減	約3,800円/月 (ガス代+4,611円/月+電気代-814円/月)	約5,300円/月 (ガス代+536円/月+電気代△5,887円/月)
かかるCO ₂ 削減量	117kg/月 (468kwh×0.25kg)	118.6kg/月 (180kwh×0.25kg)		48.1kg/月 (370km×0.13kg)	126kg/月 23 (504kwh×0.25kg)

省エネ・再エネ施策（CO2削減効果）

・ 家庭向け再エネ導入促進施策として（私案）

	太陽光 発電設備	蓄電池	ZEH (ネット・ゼロ・エネル ギーハウス)	EV	燃料電池
行政としての 設置費用 補助	設置費用の2/3を 補助 (上限 100万円)	設置費用の2/3を 補助 (上限 140万円)	定額補助 (ZEH+ 100万円) (ZEH 55万円)	国の補助交付額を上限 (普通車 65万円) (軽自動車 55万円)	設置費用の2/3を 補助 (上限 140万円)
財源	地域脱炭素移行・再エネ推進交付金 を使えば、上記補助金を 国の交付金 で賄える				

交付要件が**脱炭素先行地域**に選定されていること（一定の地域で民生部門の電力消費に伴う CO2排出実質ゼロ達成 等）

- (1)CO2排出削減に向けた設備導入事業(①は必須) ①再エネ設備整備 ②基盤インフラ整備 ③省CO2等設備整備
 (2)効果促進事業 (1)「CO2排出削減に向けた設備導入事業」と一体となって設備導入の効果を一層高めるソフト事業等

事業実施期間は 概ね**5年間**

実質無料化



無料化ということばが先行

どうしても、通行料金の直接助成と捉えがち

実質無料化



実質ということばに注目

生活に関わる通行料部分に対して、
「稼ぐ」、「節約する」、「助け合う」等により、実現可能！